

## 教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	フジタ マモル	性別			
氏名	藤田 守	男	生年	1972年	
所属	農学ビジネス学科	身分	准教授		
学 歴					
年 月	事 項				
1994年8月	Institute of Languages, The University of New South Wales, Sydney, Australia (～1995年4月)				
1996年3月	拓殖大学 政経学部 経済学科 卒業 経済学士				
1998年3月	国立台湾師範大学国語教学中心 (～1999年6月)				
1999年9月	東呉大学 (台湾) 外国語文學院 修士課程 入学				
2001年8月	東呉大学 (台湾) 外国語文學院 修士課程 修了				
2002年1月	東呉大学 (台湾) 修士 (言語学)				
職 歴					
年 月	事 項				
1996年4月	ビッグホリデー株式会社 (東京都, 旅行業) 入社 営業企画室, 宣伝広報担当 (～1997年3月)				
1997年4月	同社総務部付, コミュニティ・ネットワーク株式会社 (東京都, チケット販売業及び旅行業) 出向, システム事業部, コンピューター端末保守担当 (～1998年1月)				
1998年6月	福爾摩沙地球村語文短期補習班 (台湾) 専任講師 (～2000年6月)				
1999年6月	協易機械股份有限公司 (台湾) 非常勤講師 (～2002年3月)				
1999年12月	台湾松下電器股份有限公司 (台湾) 非常勤講師 (2000年1月)				
2000年3月	東呉大学 (台湾) 公開講座 非常勤講師 (～2004年2月)				
2002年10月	財団法人資訊工業策進会 (台湾) 非常勤講師 (2003年11月)				
2003年9月	国立中正紀念堂 公開講座 非常勤講師 (～2003年1月)				
2003年9月	世新大学 (台湾) 人文社会学院 日本語文科学科 非常勤講師 (～2004年1月)				
2004年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 専任講師 (～2007年3月)				
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 助教 (職位名改称) (～2009年3月)				
2009年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目 (2015年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
キャリアスキル	演習室5	前期	月	2	
2年ゼミナール	演習室5	前期	木	3	
1年ゼミナール	演習室5	前期	木	2	
総合中国語Ⅰ	205教室	前期	月	5	
総合中国語Ⅱ	205教室	前期	月	4	
中国語コミュニケーションⅠ	205教室	前期	火	4	
中国語コミュニケーションⅡ	205教室	前期	火	3	
総合日本語Ⅰ	102教室	前期	水	4	
総合日本語Ⅱ	102教室	前期	木	4	
日本語コミュニケーションⅠ	102教室	前期	火	2	
日本語コミュニケーションⅡ	102教室	前期	火	1	
キャリアスキル	202教室	後期	月	2	
2年ゼミナール	演習室5	後期	木	3	
1年ゼミナール	演習室5	後期	木	2	
総合中国語Ⅰ	205教室	後期	月	5	
総合中国語Ⅱ	205教室	後期	月	4	
中国語コミュニケーションⅠ	205教室	後期	火	4	
中国語コミュニケーションⅡ	205教室	後期	火	3	
総合日本語Ⅰ	102教室	後期	火	2	
総合日本語Ⅱ	102教室	後期	木	5	
日本語コミュニケーションⅠ	102教室	後期	木	1	
日本語コミュニケーションⅡ	301教室	後期	水	4	

<p><b>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</b></p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>(1) 現行授業の目標 (平成27年度授業改善のための学生アンケート集計結果より)  中華文化や日中関係の理解、語学力向上を目標とした。こうした活動を通じて授業の活性化と学習効果の向上を目標とし、従来の取り組みの中で以下4点をさらに強化した。  ①外国語学習に対する苦手意識から、第2外国語学習は難しそうというイメージの払拭  ②報道内容と国民意識の実際との相違点を明示することによる相互理解の促進  ③学習者個々に応じた語学学習を通じての教養レベルの高揚  ④学習目的に関して、授業を通じて徐々に明確にできるような情報の提供  平成26年度の調査結果を踏まえ平成27年度度は以下の点を追加した。  ⑤語学習得やその必要性に懐疑的な学習者に配慮した授業運営</p> <p>(2) 教育効果  ①学習環境は、騒がしくないが16名全員であった。  ②ねらい・関心は、ねらいは明確である16名全員、関心がある13名、ない3名であった。  ③理解・到達度は、理解しやすい16名全員であった。  ④授業の方法に関して、進度は適切12名、早すぎる2名、遅すぎる2名であった。  ⑤授業の双方向性は、教員が質問に応じる8名、質問相談の経験なし8名であった。</p> <p>(3) 自己評価  中国語科目を履修する学習者のうち編入希望者ほぼ全員が必修という位置づけで、なおかつ第2外国語の選択もできないという低い期待値で一から学習を開始することとなる。  このため、単に教科書を進めていくだけではその期待値の向上は難しい。よって本年度は日本と中国の学内の雰囲気や交通手段など生活様式の違いを明確に示すことにより相互理解を促進した。また、年間4回実施の小テストを通じて日頃の取り組みとその結果を定期的にフィードバックしてきた点が受け入れられたと考える。</p>																				
<p><b>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</b></p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>学習の満足度は、大いに満足4名、満足11名、無回答1名であった。(平成27年度授業改善のための学生アンケート集計結果より) また、自由記述において、中国語の基礎が理解でき将来仕事に就いたときに役立ちそうだと肯定的に評価しているコメントや、授業で学んだ言葉を留学生同士が会話している中で聞き取ることができ新たな自己発見を果たしたとするコメントなどが見られた。  一方、平成26年度の調査では、将来自分は外国語を使うことはないのではないかという懐疑的なコメントが見られ、そうした学習者に配慮した授業運営と情報提供が求められる点を確認した。  平成27年度は開始当初から以上の点を意識し授業運営をした結果、懐疑的なコメントはなく、中国語検定や海外研修の参加に意欲的なものを複数輩出できたことから、次年度もこうした取り組みを継続的に実施していくこととする。</p>																				
<p><b>4 教科書、教材の作成状況</b></p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>1. 教科書本文・単語関連の絵教材 (対象科目：総合中国語Ⅰ・中国語コミュニケーションⅠ)</p> <p>2. Blackboardを活用した長期休暇中の全文ディクテーション課題 (対象科目：総合日本語Ⅰ・日本語コミュニケーションⅠ)</p>																				
<p><b>5 学生の指導 (課外活動・厚生補導等)</b></p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2004年度</td> <td>中国語検定準4級、4級 個別対策講座</td> </tr> <tr> <td>2005年度～現在に至る</td> <td>中国語検定試験 (6月・11月) 学内試験運営管理</td> </tr> <tr> <td>2006年度～2007年度</td> <td>シーズンスポーツ同好会顧問</td> </tr> <tr> <td>2009年8月</td> <td>処分学生に対する指導 (全16回)</td> </tr> <tr> <td>2010年11月, 2011年10月</td> <td>国際交流パーティー (深川国際交流協会) 対象留学生スピーチ指導</td> </tr> <tr> <td>2010年12月, 2011年11月, 2013年11月, 2015年10月</td> <td>国際交流パーティー (深川国際交流協会) 引率</td> </tr> <tr> <td>2012年6月, 2013年6月 2014年6月, 2015年6月</td> <td>インターナショナルデー (深川国際交流協会) 発表指導及び引率</td> </tr> <tr> <td>2013年7月, 2014年7月, 2015年7月</td> <td>しゃんしゃん傘踊り実行委員会指導 (学生委員会)</td> </tr> <tr> <td>2013年11-12月</td> <td>経営経済科卒業制作実行委員会・委員</td> </tr> <tr> <td>2016年1-2月</td> <td>海外研修上海研修者事前研修 (対象者3名、全3回)</td> </tr> </table>	2004年度	中国語検定準4級、4級 個別対策講座	2005年度～現在に至る	中国語検定試験 (6月・11月) 学内試験運営管理	2006年度～2007年度	シーズンスポーツ同好会顧問	2009年8月	処分学生に対する指導 (全16回)	2010年11月, 2011年10月	国際交流パーティー (深川国際交流協会) 対象留学生スピーチ指導	2010年12月, 2011年11月, 2013年11月, 2015年10月	国際交流パーティー (深川国際交流協会) 引率	2012年6月, 2013年6月 2014年6月, 2015年6月	インターナショナルデー (深川国際交流協会) 発表指導及び引率	2013年7月, 2014年7月, 2015年7月	しゃんしゃん傘踊り実行委員会指導 (学生委員会)	2013年11-12月	経営経済科卒業制作実行委員会・委員	2016年1-2月	海外研修上海研修者事前研修 (対象者3名、全3回)
2004年度	中国語検定準4級、4級 個別対策講座																				
2005年度～現在に至る	中国語検定試験 (6月・11月) 学内試験運営管理																				
2006年度～2007年度	シーズンスポーツ同好会顧問																				
2009年8月	処分学生に対する指導 (全16回)																				
2010年11月, 2011年10月	国際交流パーティー (深川国際交流協会) 対象留学生スピーチ指導																				
2010年12月, 2011年11月, 2013年11月, 2015年10月	国際交流パーティー (深川国際交流協会) 引率																				
2012年6月, 2013年6月 2014年6月, 2015年6月	インターナショナルデー (深川国際交流協会) 発表指導及び引率																				
2013年7月, 2014年7月, 2015年7月	しゃんしゃん傘踊り実行委員会指導 (学生委員会)																				
2013年11-12月	経営経済科卒業制作実行委員会・委員																				
2016年1-2月	海外研修上海研修者事前研修 (対象者3名、全3回)																				
<p><b>6 その他</b></p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2015年9月</td> <td>市民公開中国語講座 (全7回) (主催：本学地域国際交流委員会)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	2015年9月	市民公開中国語講座 (全7回) (主催：本学地域国際交流委員会)																		
2015年9月	市民公開中国語講座 (全7回) (主催：本学地域国際交流委員会)																				
<b>研 究 業 績</b>																					
<p><b>1 研究分野・活動</b></p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>実験音声学, 音響音声学, 比較音声学, 日本語教育学.</p>																				

<b>2 研究課題</b> (今後の展開・可能性を含む)  (記述式：350字以内)	山内（2008）では、英語学習者を対象とした研究において、同一クラス内の学力格差の傾向、基礎学力・学習習慣を身につけていない層の増加の傾向が今後も続くであろうとの想定のもと、英語の習熟度や学習習慣の点での個人差に対応し、受講生全員が英語力を伸ばし、達成感・満足感を得られるよう、授業設計を工夫する必要があると指摘している。 本研究では、多様な日本語レベルが混在する日本語学習者で構成されたクラスにおいて休暇中の日本語学習に関する考察を行い、e-learningによる課題の取り組みの評価とその学習効果を明らかにし、今後の課題を提示することを本研究の目的としている。 今後の展開は、音声と文字の早期一致を図ることを目的に学習方法を工夫する指導を授業内に取り入れ効果を確認することである。			
<b>3 研究助成等</b> (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 特になし  (2) 学内 2010年度 拓殖大学人文科学研究所個人研究助成  (3) 学外 特になし			
<b>4 資格・特許等</b> (主要3件以内)				
<b>著書、学術論文、作品等の名称</b> (主要15件以内)	<b>単著、共著の別</b>	<b>発行又は発表の年月</b>	<b>発行又は発表雑誌等又は発表学会等の名称</b>	<b>要 約</b>
(学位論文)  中国語母語話者の日本語発話におけるモーラ持続時間の特性 - 台湾出身者と東京語話者の発話データを比較対照して -	単	2002年1月	東呉大学修士論文. 200頁	第二言語学習者が、目標言語話者と誤解のない円滑なコミュニケーションを行うには、その根底にある自然な言語のリズムによる発話は欠かせない。日本語のリズムではその基本単位とされるモーラの構成要素に、持続時間がしばしば挙げられているが、中国語母語話者の日本語発話に関するリズム研究のみならず音声的傾向に関する研究すら現状ではあまりなされていないので、発話の実態は不明な点が多い。従って、まず、中国語母語話者の日本語発話における時間的傾向の体系化とその問題点の指摘を本研究の目的とした。
(学術論文)  北海道短期大学における日本語教育	単	2013年2月	日本語教育の歩み－拓殖大学日本語教育五十周年記念誌－ pp. 118-125	拓殖大学北海道短期大学の留学生の受け入れの経緯と教育活動・客員講師の招聘・課外活動の取り組みなどをまとめた上で、今後の課題について論じた。
入学準備教育における学術的学習サイクルの適用 - e-learning システムによる日本語学習の意識調査とその結果 -	共	2011年10月	拓殖大学人文科学研究所紀要第26号 pp38-70	本研究の目的は遠隔地の留学生を対象に学習内容を日本語聴解に限定してe-learningシステムによる入学準備教育を実施し、その教育方法や学術的学習サイクルの適用の有効性を確認することである。本稿においては、教材利用回数など実施状況のデータ、アンケートによる意識調査や年度別の日本語能力試験合格率をもとに検討した。 その結果、学習前から学習後にかけて「日本語を聞く」ことに対する意欲は維持され自信は肯定的に変化し、本教育に対する達成感や満足感を得ていることが確認された。更に、日本語能力試験合格率は本教育を受けたグループの方が受けなかった過去のグループより高いという傾向が示された。

Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System	共	August,2011	International Journal of Computer Science and Information Security, Vol.9, No.8 pp.32-38.	At universities, new students' scholastic achievements have become more varied because of the university's increased entrance ratio. Each university must now work to improve new students' scholastic achievements. This study aims to develop a system to ensure new students' scholastic achievements. We implemented the pre-school education program using an e-learning system in the three months before entering a university and investigated the program's effects. The targets include the participating and non-participating new students. The investigation data are students' attendance and question responses after entering college. Results of attendance and question response data showed that participating new students maintained study habits after entering school.
拓殖大学北海道短期大学における e-learning システムを活用した入学準備教育 - 入学準備教育の実施と今後の課題 -	共	2011年3月	拓殖大学人文科学研究 所紀要第25号 pp75-96.	拓殖大学北海道短期大学では、2003年度のAO入試の開始と同時に入学準備教育を導入した。また、経営経済科では2010年1月から2010年3月までの3ヶ月間、学習習慣の維持には、学習管理と双方向性が必要であると考え、e-learning システムを活用して実施した。実施結果より、現在大学が置かれている環境から、入学準備教育の必要性を確認した。第2章では、拓殖大学北海道短期大学経営経済科において2009年度に e-learning システムを活用して実施した入学準備教育の概要と学習状況について述べた。続く第3章では受講後に受講生を対象に行った入学準備教育の評価に関するアンケート調査の結果を述べ、第4章では実施結果に関して考察した。第5章では今後の課題と改善方法を検討した。
中国語母語話者の日本語発話における助詞の軽声化とその原因 - 2モーラ語の単語発話と文節発話の比較 -	単	2008年10月	拓殖大学語学研究 118号 pp.13-30	本稿により明らかとなった点は以下のとおりである。中国語の文法上の付属語である「助詞」はすべて軽声で発話され、長さが短い。日本語の助詞には長さの特徴はない。中国語母語話者は日本語の付属語に当たる助詞をも中国語の付属語と同じと考えている可能性がある。尾高型は単語発話ではアクセント核はないが、文節発話では尾高型発話はアクセント核が生じるため混乱しがちであり、助詞のモーラには母語で使い慣れている中国語の軽声が使われたと考えられる。以上から、学習者が母語である中国語の「第四声+軽声」というアクセントで日本語の「単語の語末+助詞」を読み上げている傾向が示唆された。
中国語母語話者の日本語文節発話のモーラ持続時間 - 1モーラ語から4モーラ語の語末と助詞の長さの特徴 -	単	2007年9月	東呉外語学報第25期 pp.81-114	中国語母語話者の文節発話は助詞の前の語末モーラの持続時間が長音化すると仮説をたて中国語母語話者の上級者と初級者、東京語話者の発話実験を行った。その結果、東京語話者は平板式と起伏式アクセントで語末と助詞は[短・長]傾向であった。平板式アクセント発話では中国語母語話者の初級者・上級者ともに東京語話者と同様であった。起伏式アクセント発話では中国語母語話者の上級者は東京語話者と同様だが、初級者は[長・短]であった。
中国語母語話者の語末長音化現象 - 単語発話における日本語モーラ持続時間の特徴 -	単	2005年9月	東呉外語学報第21期 pp.41-71	語末伸長化現象 (final lengthening) とは、韻律境界前でセグメントが伸長される現象である。中国語ではポーズ前の音節母音の持続時間が伸長する。本研究では、日本語にもある語末伸長化現象が、中国語話者の日本語発話でもあるのか明らかにすることを目的とし、中間言語研究の観点から、中国語話者(上級者・初級者)と東京語話者の発話を調査した。

中国語母語話者の日本語モーラリズム - モーラ数とモーラ持続時間の相関関係 -	単	2003年7月	東呉日語教育学報 第26期 pp.243-274	本稿は中国語母語話者と東京語話者の日本語発話におけるモーラリズムがどのように現れるかを検証したものである。 東京語話者5名と台湾出身の中国語母語話者11名(上級者群6名・初級者群5名)の1-4モーラの無意味語を用い東京アクセント型による発話の録音とその持続時間の測定をした。モーラ数と持続時間の相関関係を表す線の直線性・語全体における各モーラの平均持続時間の算出を行い、三者を比較した。
中国語母語話者の日本語発話におけるモーラ持続時間に関する初歩的研究 - 発音調査報告 -	単	2002年7月	東呉日語教育学報 第25期 pp.85-118	誤解のない円滑なコミュニケーションを行うには、自然な言語のリズムが欠かせない。 中国語母語話者の日本語発話における時間的傾向の把握を本稿の目的とし、東京語話者5名と台湾出身の中国語母語話者11名(上級者群6名・初級者群5名)の1-4モーラの無意味語を用い東京アクセント型による発話の録音とその持続時間の測定をした。そして、発話データに関するモーラの持続時間・全体に占める各モーラの持続時間の割合・持続時間のばらつきの算出を行い、三者を比較した。
(学会等発表)				
マルチメディア・コンテンツを活用した入学準備教育における出題方法の改善と情報教育科目の評価	共	2011年9月8日	平成23年度教育改革ICT戦略大会予稿集 社団法人私立大学情報教育協会	課題の解説にマルチメディア・コンテンツを活用して出題方法を改善し、入学準備教育を実施した。その結果、入学前では改善前よりも改善後の受講生が学習習慣を維持し、各章での受講生の取り組みは問題の趣旨を理解した解答に改善された。
日本語聴解力養成のための e-learning システムによる入学準備教育 - 中国在住の中国人留学生を対象に -	共	2011年8月21日	跨文化交际中的日语教育研究2, pp. 295-297, 修刚, 李运博(編) 高等教育出版社(中国)	日本語の聴解力不足は拓殖大学北海道短期大学の留学生にも散見されるため、学習習慣の確立と聴解能力の向上を目的とする入学準備教育を2010年より留学開始3カ月前の留学生を対象に実施している。 2011年における本教育実施後のアンケート結果によると、「聞く」「話す」共に自信に対する評価が向上して改善傾向が認められた。また、自由記述による評価も概ね肯定的であり、本教育の修了時には学習習慣の形成がなされていたと考える。 さらに、入学後に実施した試験結果によると、本教育の取り組みの程度と入学後の聴解力の向上の程度は一定の関係があり、入学後の取り組みにも影響を与えていることが確認された。
短期大学におけるマルチメディア・コンテンツを活用した e-learning システムによる入学準備教育の教育効果	共	2011年5月3日	日本教育工学会研究報告集 JSET11-2	マルチメディア・コンテンツを活用した e-learning システムによる入学準備教育を、短期大学の社会科学系学科で実施した。 その結果、マルチメディア・コンテンツを活用して教材や課題の出題方法を工夫したことにより、受講生の学習への取り組み方が改善された。また、入学準備教育の受講生が入学後に受講する情報教育科目で学習習慣を維持する教育効果を確認した。
入学準備教育に活用できるコンテンツ自動作成システムの評価	共	2010年9月3日	平成22年度教育改革ICT戦略大会予稿集 pp.216-218 社団法人私立大学情報教育協会	学生生活の理解や基礎学力の向上のため、短期大学では入学予定者に対する入学準備教育の実施を求められている。この要求に対して、2010年1月から3月の3ヶ月間、e-learning システムを活用し、社会科学系短期大学の日本人学生と留学生の入学予定者を対象とした入学準備教育を実施した。本研究では、この学習状況と実施結果を報告した。
短期大学の入学者を対象とした入学準備教育における e-learning システムの活用	共	2010年7月3日	日本教育工学会研究報告集 JSET10-3 pp.71-78	入学準備教育のための e-learning 教材として、マルチメディア・コンテンツを開発した。語彙力、文章の読み方、講義ノートの取り方と留学生向け日本語会話能力の四つを準備した。受講者から高い評価が得られたものの、出題方法の改善など課題も明らかになった。

(その他)					
Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System (summary)	共	October,2011	The Journal of Humanities and Sciences, No.26 Institute for Research in the Humanities, Takushoku University	This report on our research results to date was made possible by a grant-in-aid for individual research, in fiscal year 2010, from the Institute for Research in the Humanities at Takushoku University. It was published in "Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System" in the International Journal of Computer Science and Information Security (2011; Vol. 9, No. 8, pp. 32-38).	
初対面の人との話題	単	2008年12月	日本語ジャーナル 12月号 pp.37-42	『階梯日本語雑誌』通巻第259号, 鴻儒堂出版社	
会話の円滑な終わらせ方	単	2008年11月	日本語ジャーナル 11月号 pp.37-41	『階梯日本語雑誌』通巻第258号, 鴻儒堂出版社	
オフィスに氾濫する二重敬語	単	2008年10月	日本語ジャーナル 10月号 pp.37-42	『階梯日本語雑誌』通巻第257号, 鴻儒堂出版社	
一般社員の朝礼の挨拶	単	2008年9月	日本語ジャーナル 9月号 pp.37-41	『階梯日本語雑誌』通巻第256号, 鴻儒堂出版社	
管理職の朝礼の挨拶	単	2008年8月	日本語ジャーナル 8月号 pp.38-41	『階梯日本語雑誌』通巻第255号, 鴻儒堂出版社	
わかりやすい説明の仕方	単	2008年7月	日本語ジャーナル 7月号 pp.38-41	『階梯日本語雑誌』通巻第254号, 鴻儒堂出版社	
アフターファイブ	単	2008年6月	日本語ジャーナル 6月号 pp.38-41	『階梯日本語雑誌』通巻第253号, 鴻儒堂出版社	
電話対応・受付・応接室でー応用編ー	単	2008年5月	日本語ジャーナル 5月号 pp.38-41	『階梯日本語雑誌』通巻第252号, 鴻儒堂出版社	
ビジネスにおける日本式名刺交	単	2008年4月	日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41	『階梯日本語雑誌』通巻第251号, 鴻儒堂出版社	
ビジネスにおける受付の仕方	単	2008年3月	日本語ジャーナル 3月号 pp.86-89	『階梯日本語雑誌』通巻第250号, 鴻儒堂出版社	
ビジネスにおける電話のマナー	単	2008年2月	日本語ジャーナル 2月号 pp.86-89	『階梯日本語雑誌』通巻第249号, 鴻儒堂出版社	
初級中国語の導入方法と教室活動	単	2006年6月	高等学校中国語教育 全国大会 pp.37	初級会話の効果的な定着と興味関心を高めるための、コミュニケーションアプローチに基づく教室活動の実践例を示した。	
研究業績 (過去3カ年分)				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	1	0	0	有	有
<b>学 内 運 営 業 績</b>					
1 役職, 各種委員会等 (主要 10 件程度)	2004年4月～2006年3月	入試広報委員会・委員			
	2007年4月～2008年3月				
	2005年4月～2007年3月	教務委員会・委員			
	2006年4月～現在に至る	学生委員会・委員			
	2010年4月～現在に至る	地域国際交流委員会・委員			
<b>学 外 活 動 業 績</b>					
1 本学以外の機関 (公的機関・民間団体等) を通しての活動 (主要 10 件程度)	2005年7月	総合演習特別講義 (市立名寄短期大学児童専攻)			
	2006年10月	総合的な学習時間の指導 (市立多度志中学校)			
	2007年5月, 2011年11月	警察通訳 (北海道旭川方面深川警察署)			
	2008年3月	総合的な学習における特別講義 (深川東高等学校)			
	2009年9月	台湾八八水害とその義捐活動に関する報告 (深川東高等学校)			
	2010年9月	広報関係文書翻訳 (深川市環境課)			
	2011年2月	高校生・保護者対象教育講演 (公文旭川事務局・深川東教室)			
	2011年12月	小中高校生対象教育講演 (公文旭川事務局・北光教室)			
	2014年3月～2014年12月	子どもの読書活動推進計画策定委員会・委員長 (深川市生涯学習課)			
	2015年1月	小中高生保護者対象教育講演 (公文旭川事務局・サニータウン教室)			
2015年7月	台湾華語スピーチコンテスト (台北駐日経済文化代表処札幌分処)				
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	2000年4月～現在に至る	日本音声学会・正会員			
	2002年6月～現在に至る	中華民国斐陶斐荣誉学会・荣誉会員			
	2004年4月～2005年3月	深川国際交流協会・会員			
	2005年3月～現在に至る	日本語教育学会・正会員			
	2009年10月～現在に至る	中検フォーラム・正会員			
	2013年4月～現在に至る	旭川日台親善協会・正会員			